



contents

特集1. 宅急便コンパクトで、贈り物に新たな付加価値

～オリジナルデザインの専用ボックスが続々登場！～

特集2. 全国に広がる地域活性化の取り組み

➢【インバウンド向け一括免税手続きカウンター】JR仙台駅と商業施設「すすきのラフィラ」に新設

➢【客貨混載】宮崎県の路線バスによる「客貨混載」エリアが拡大

【新着情報】

アジア進出を支援するヤマトグループのサービス、MVNO事業や後払い事業を展示会でご紹介

特集1. 宅急便コンパクトで、贈り物に新たな付加価値

～オリジナルデザインの専用ボックスが続々登場！～

“贈る方”の気持ちを、デザインに込めました。

小さな荷物を専用ボックスで手軽に送れる「宅急便コンパクト」は通常デザインに加え、地域限定・企業専用のオリジナルボックスを、続々展開しています。



小さな荷物に適した宅急便コンパクト専用BOX(通常デザイン)

【地域限定オリジナルボックス】

観光名所や特産品などをデザインしたオリジナルボックスを現在全国20地域で25種類販売しています。今後もヤマトグループの総合物流ターミナル「羽田クロノゲート」オリジナルボックスなど、新たな地域限定ボックスを順次発売予定です。また、自治体や観光案内所などと連携し、お土産や特産品の販売支援もサポートしていきます。※各地域のヤマト運輸の直営店等でのみ販売しています。



熊本県では「くまモン」とコラボしたオリジナルボックスを販売。箱の内側にもデザインをあしらい、開けたときに楽しんでいただけるつくり。



京都府の京福電鉄「嵐電嵐山駅」構内で、ヤマト運輸が運営する観光案内所では、京都のお土産と並んで、京都オリジナルのボックスを販売。

全25種類の地域限定オリジナルボックスは別紙をご参照ください。

【企業専用オリジナルボックス】

企業のロゴや商品、ブランドイメージに合わせたボックスを製作し、受け取ったお客さまに対して、企業ブランドや商品をPRするサポートを行っています。現在約120社のオリジナルボックスを展開しています。



企業の要望に合わせ、オリジナルボックスを製作。中の商品だけではなく、受け取った際にも喜んでいただけるデザインで顧客満足の向上につなげます。



2、3ページ目では、地域限定オリジナルボックスのデザインと使用例をご紹介します。



現在発売されている地域限定オリジナルボックスの中から、デザインや使用例を一部ご紹介します。

「希望郷いわて国体冬季大会」ゼッケンを発送(岩手県)

岩手県の観光支援の一環として、岩手県のPRキャラクター「わんこきょうだい」デザインのボックスを製作。

今年2月に開催された「希望郷いわて国体冬季大会」では、出場する選手のゼッケンをオリジナルボックスに詰めて発送しました。岩手県の魅力を全国の選手にアピールするために一役買っています。



ゼッケン以外に、岩手県の特産品も一緒につめて地域支援につなげています。



伝統文化の魅力をアピール(秋田県)

秋田県観光連盟や地元メーカー様からデザインに関するアドバイスをいただき、秋田を象徴する雪景色を基調に、お祭りやなまはげ、秋田犬など伝統文化の魅力を発信したデザインに。

秋田空港内などのお土産店で食品などの発送にご利用いただいておりますが、今後も、観光連盟や、地元企業などと連携し、秋田県の魅力を全国に伝えていきたいと考えています。



秋田名物きりたんぽを詰めて、店頭でアピールしています。



「独眼竜正宗」で鳴子こけしをお届け(宮城県)

宮城を代表する武将 伊達正宗を登場させ、三日月の兜飾りや、異名である「独眼竜」から、竜をあしらったインパクトあるデザインに。鳴子温泉を訪れたお客様から、このボックスを使って伝統工芸品「鳴子こけし」が、多く贈られています。中身のお土産品と共に、届いた方が宮城を訪れるきっかけになればとの思いを込めています。



温泉地では、手ぬぐいなど温泉グッズと並べてディスプレイ



「あうたぴに、あたらしい」横濱ブランドを発信(神奈川県)

昨年2月にヤマト運輸が横浜市文化観光局と観光促進に関わる協定を結び、その取り組みの一環としてデザインしました。

文化観光局のスローガン「あうたぴに、あたらしい Find Your YOKOHAMA」に、観覧車やベイブリッジなど横浜を象徴する港の風景を表現。

横濱ブランド「ヨコハマ・グッズ横濱001」がセレクトしたお土産「ヨコハマハイカラレーベル」をオリジナルボックスに入れて販売。また、横浜中華街のお土産店でもボックスを販売し、お客さまがお菓子を自由に詰め合わせて贈られるようにしています。



ふたの内側のQRコードは、横浜市の観光情報サイトに繋がり、受け取った方に横浜情報をアピールできます。





「いかなごの釘煮」のお裾分け文化を伝える(兵庫県)

瀬戸内海に隣接する兵庫県ではおふくろの味として各家庭で親しまれている「いかなごの釘煮」。兵庫県を中心に、春の恒例行事として、各家庭ごとの味を知人友人に贈答する慣習があり、デザインにも「いかなごの釘煮」のイメージをいれました。

今年は、釘煮を詰めるためのタッパーと宅急便コンパクトのボックスをセットにした専用ボックスを新たに販売。その手軽さから、たくさんの方にご利用いただきました。地元文化をオリジナルボックスを通じて伝えています。



いかなごの解禁時期には、スーパーの店頭で釘煮の材料と一緒にオリジナルボックスを展示。

「安芸の宮島」の思い出を込めて(広島県)

修学旅行生が宮島で購入したもみじ饅頭を、お店からお土産として発送する際に、受け取る方にも、宮島を楽しんで頂きたいという願いからデザインを製作。

もみじ饅頭だけでなく、ご当地キーホルダーなど様々な種類のお土産を組み合わせたお土産ボックスとしてご利用いただいています。宿泊施設にも展開しており、忘れ物を送る際にこのボックスを使用することで、受け取ったお客さまに、宮島を思い出して再訪いただけるようにアピールしています。



もみじまんじゅうなど様々なお土産を詰められて人気です。

「海峡と歴史のまち」下関を地元企業とアピール(山口県)

下関市の活性化と、県外への下関ブランドの発信を目的とし、ヤマト運輸が下関市役所と連携して製作。デザインは、下関市のキャッチフレーズである「海峡と歴史のまち」をテーマに、下関市のシンボルである海峡ゆめタワーと関門海峡、そして厳流島の宮本武蔵や佐々木小次郎を起用、左上には下関で有名な『トラフグ』を載せています。地元の企業様が「デザインだけでなく、トラフグ関連の商品を入れるのにもピッタリ！」と好評を頂いています。



トラフグのフリーズドライ味噌汁を詰め合わせたセットは、製造元の企業様からお声掛けを頂き、出来上がりました。



有田焼400年の伝統を大切にお届け(佐賀県)

有田焼が今年で創業400年を迎えるにあたり、有田町との取り組みを強化する一環で、オリジナルデザインを製作。柄の中にムツゴロウが5~6匹とSAGAの字が隠れているのが特徴。

固定することで緩衝材が不要となる包装資材クイックフィットエコノと組み合わせて有田焼を窯元から発送したり、ふるさと納税の返礼品をお客様に送る際にご利用いただいています。



透明フィルムで包むため、開封時に有田焼の柄をきれいに見せます。





特集2. 全国に広がる地域活性化の取り組み

～一括免税手続きカウンターと客貨混載が全国に展開～

1 【インバウンド向け一括免税手続きカウンター】JR仙台駅と商業施設「すすきのラフィラ」に新設

ヤマトグループはアジア圏を中心に増え続ける訪日観光客の免税手続きを便利にするため、大型商業施設や商店街に向けた、一括免税手続きのソリューションを提供しています。

従来は、商品を販売した各店舗毎に免税手続きを行っていましたが、2015年4月からの税制改正により事業者が複数の店舗の免税手続きを一括して行えるようになったため、当社も大型商業施設や商店街において一括免税手続きカウンターの設置を進めています。

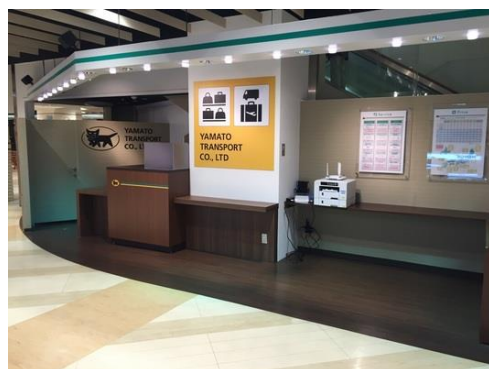
初の地元商店街との密着型モデルとして広島県尾道市の尾道商店街にヤマト運輸の直営店を出店し、5月1日より一括免税手続きカウンターをオープンしました。さらに、5月6日よりJR仙台駅の2Fに、6月1日より札幌市すすきの駅直結の大型商業施設「すすきのラフィラ」の地下2階にも同様に設置し、順次業務を拡大しています。



尾道市では商店街の並びにカウンターを設置

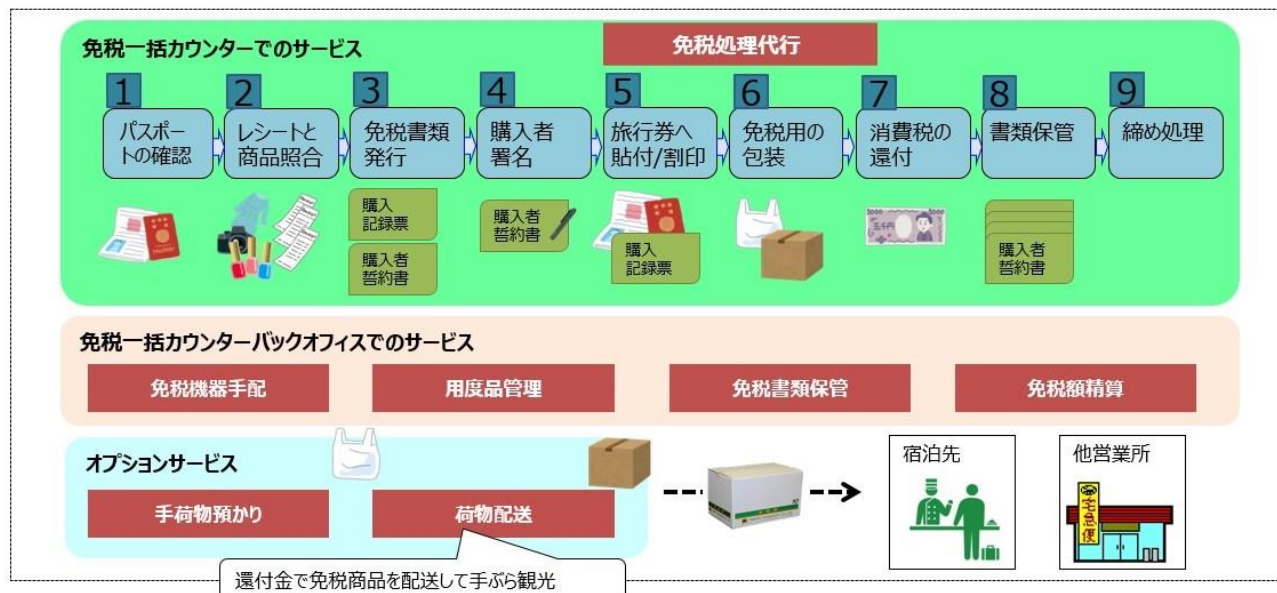
これまでは、訪日観光客が各店舗毎に都度パスポートを提示して行っていた免税手続きを、ヤマト運輸が一括免税手続きカウンターで手続きをすることで、1度で完了し、買い物時の利便性が大幅に向上します。

さらに、カウンターでの手荷物預かりサービスにより、買い物時に大きな荷物を持ち歩く必要がなくなり、手ぶらでの観光をさらに楽しむことができます。今後もヤマトグループは訪日観光客が快適に旅していただけるよう、対応地域の拡充していきます。



「すすきのラフィラ」地下2Fに6月よりオープンした一括免税手続きカウンター

免税カウンターサービス提供のイメージ





2 【客貨混載】 宮崎県の路線バスによる「客貨混載」エリアが拡大

2011年5月にヤマト運輸が京福電気鉄道株式会社(京都市)との取り組みを皮切りにスタートした「客貨混載※」。2015年6月には岩手県北自動車株式会社と協業し、人口減少と高齢化が進む地方でのバス路線の生産性向上・路線網の維持と物流の効率化を両立させる為に盛岡⇄重茂間で運行を開始しました。

同年10月からは宮崎県・西都市・西米良村の3つの自治体と連携し、宮崎県西都市東米良地区と西米良村間でも「客貨混載」の取り組みを始めました。さらに今年の6月からは、宮崎県での取り組みが評価され、同じく宮崎県の延岡市－高千穂町、日向市－諸塚村を結ぶ2路線で新たに取り組みを開始しました。

路面電車(嵐電)を利用した「低炭素型集配システム」によるCO2排出量の削減の取り組みや、岩手県北自動車株式会社・宮崎交通株式会社とのバスの荷室を利用して人と物を同時に運ぶ取り組みは、全国各地の自治体や鉄道・バス会社、各種団体からも注目を集め、多くのお問い合わせをいただいています。



「延岡市－高千穂町」を走る、宮崎交通の客貨混載バス



宮崎交通「客貨混載バス内の荷物専用スペース」

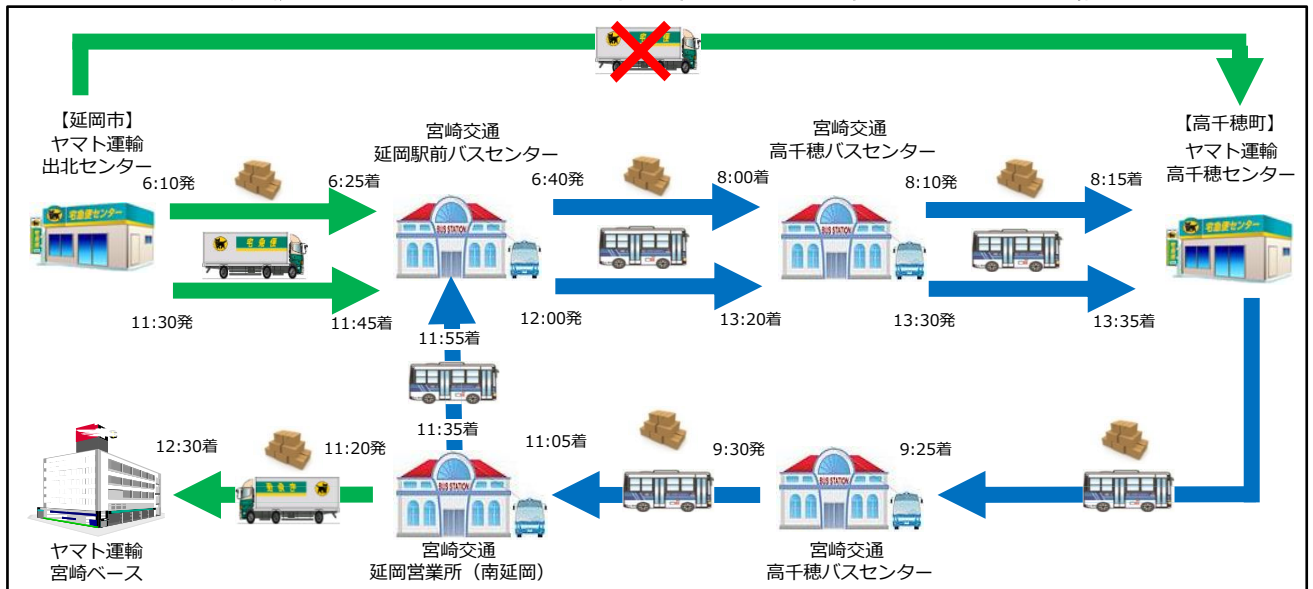
【取り組みのメリット】

- ① バス事業者にとって、バス路線網の維持につながる収入源の確保が出来る。
- ② 自治体は生活交通路線の安定化による地域住民の生活基盤の維持・向上が可能。
- ③ 宅配事業者は、セールスドライバーの移動距離・時間を短縮し、地域に滞在する時間が増えることで、より地域に密着したサービスを提供することが可能。
- ④ トラックの走行距離が減ることで、環境負荷を低減。

※客貨混載とは

人と貨物を同じ車両で一緒に運ぶことや、お客様の輸送に付随して貨物を運ぶことを意味します。

客貨混載の運行フロー図（延岡市-高千穂町を結ぶ路線バスで宅急便を輸送）





新着情報

アジア進出を支援するヤマトグループのサービス、MVNO事業や後払い事業を展示会でご紹介

日本企業のアジア進出をヤマトグループが支援

【ヤマト運輸・ヤマトロジスティクス・ヤマトグローバルロジスティクスジャパン(YGL)・ヤマト包装技術研究所(YPTI)】

5月19日(木)、20日(金)の2日間、東京流通センターで開催された「アジア・シームレス物流フォーラム2016」に、企業のアジア進出を支援するヤマトグループ各社のサービスを紹介するため出展しました。

中国向け越境EC「ヤマトチャイナダイレクト」をはじめ、アジアへの玄関口となる沖縄の立地を活かした保守パーツ等のスピード輸送を提供する総合物流ターミナル「サザンゲート」や、手軽かつ大切に梱包できるクイックフィットなど配送シーンに合わせた最適な包装資材を提案するYPTIの商品をご紹介します。

YGL執行役員 ソリューション営業部長 書川美樹が、京東・FRANKとYGLの連携による中国向けの越境eコマースのサポートについて講演を行い、健康食品や化粧品業界を中心としたお客さまにご来場いただきました。



市場が広がるMVNO事業者を支援するサービスをPR【ヤマトシステム開発】

5月25日(水)～27日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された、「ワイヤレスジャパン2016」にヤマトシステム開発が出展しました。

通信系の展示会では国内最大規模となっており、メーカー様や製造業界など、多くの方々が来場されました。ヤマトシステム開発が提供する、MVNO事業者向けプラットフォームを構築している、スマートフォンの輸入・検品、契約時の本人確認、設定・キッティング、端末保証、リコールサービスなどをご紹介します。MVNO事業者のもつ多岐に渡るお悩みが、ヤマトグループのサービスで解決できることをブースを通じてPRしました。



EC市場を支える決済サービスを通販事業者に提供【ヤマトフィナンシャル】

5月25日(水)、26日(木)の2日間、マイドームおおさかで「第6回イーコマースEXPO 2016大阪」が開催され、ヤマトフィナンシャルは、EC決済で需要が高い①代引き、②クレジットカード、③コンビニ後払いの3大決済が一括導入できることを訴求するため、出展しました。

購入者の需要が高い3大決済を通販事業者が取り揃えることで、購入者の購買意欲を高められるという点から、多くのお客さまに関心を寄せていただきました。

特に後払いについては、EC事業者様の業務効率化やリスク回避につながる、リアルタイムオーソリ機能(=即時与信反映)や、商品代金立替サービスに、来場者の注目が集まりました。



秋田県



岩手県



山形県



宮城県



福島県



東京都



神奈川県



静岡県



長野県



石川県



岐阜県



三重県



京都府



兵庫県①



兵庫県②



徳島県



広島県①



広島県②



山口県



佐賀県



熊本県①



熊本県②



熊本県③



沖縄県①



沖縄県②

